

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	生化学	単位 1単位	人体の構成成分である化学物質の性状と代謝を理解する		
担当講師	松山 裕文 管理薬剤師経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	生体を構成する物質とその代謝	生化学を学ぶための基礎知識 生化学とは 生体の化学の基礎知識 生命とは 細胞の構造と機能	講義	基礎分野 人間工学
	2		代謝の基礎と酵素・補酵素 代謝と生体のエネルギー 酵素の基礎知識 補因子	講義 確認テスト	専門基礎分野 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論
	3		ビタミン	講義	病態と治療Ⅰ
	4		ポルフィリン代謝	確認テスト	病態と治療Ⅱ
	5		糖質の構造と機能 糖質とは 単糖の構造と機能 二糖の構造と機能 多糖の構造と機能		病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 病態と治療Ⅵ
	6		脂質の構造と機能 脂質とは 脂質の種類 リポタンパク質	講義 確認テスト	専門分野 看護学概論
	7		タンパク質の構造と機能 タンパク質とは アミノ酸 タンパク質の構造	講義 確認テスト	共通看護技術Ⅲ ヘルスアセスメント
	8		代謝	講義	経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ 基礎統合演習
	9		糖質代謝 脂質代謝 タンパク質代謝	確認テスト	成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ
	10	遺伝情報とその発現	遺伝子と核酸		成人援助論Ⅴ
	11		遺伝子の複製・修復・組換え 転写 翻訳と翻訳後修飾	講義 確認テスト	老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践
	12	細胞のシグナル伝達とがん	シグナル伝達	講義	
	13		シグナル伝達の概要 細胞内シグナル伝達の機序 内分泌の生化学的基盤 がん	確認テスト	
	14	総まとめ		講義	
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	看護形態機能学 I	単位 1単位	人体で営まれている生命現象のうち、生命を維持する機能(からだの支持・栄養と消化吸収・身体機能の防御と適応・)について理解する。その人体の構造と機能の理解から、日常生活における活動を理解し、看護学及び看護援助技術へつなげる		
担当講師	池田 峻弥 医学研究科 山田 緑 看護師臨床経験:5年以上 教育経験:3年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5	解剖生理学のための基礎知識  身体の支持と運動	形から見た人体 人体の構造と区分 人体の部位と器官 機能から見た人体 動物機能と植物機能の器官系 体液とホメオスタシス 骨格 骨格の連結 骨格筋 骨格と筋 (体幹・上肢・下肢・頭頸部) 筋の収縮	講義	基礎分野 人間工学  専門基礎分野 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 病態と治療Ⅵ
	6	動く	歩く・つまむ・表情	講義	
	7 13	栄養と消化と吸収	口・咽頭・食道の構造と機能 口の構造と機能 咽頭と食道の構造と機能 腹部消化管の構造と機能 胃の構造と機能 小腸の構造と機能 栄養素の消化と吸収 大腸の構造と機能 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 腹膜	講義	専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ ヘルスアセスメント
		身体機能の防御と適応	皮膚の構造と機能 皮膚の構造・付属器・皮膚の血管と神経 代謝と運動 運動とエネルギー 体温とその調節 熱の出納・体温の分布と測定 体温調節・発熱・高体温と低体温	講義	経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ 基礎統合演習 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践
	14	お風呂に入る 食べる	垢を落とす・皮膚とそ族物・皮膚と粘膜・温まる 食欲・食行動・咀嚼し味わう・嚥下・消化と吸収	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	看護形態機能学Ⅱ	単位 1単位	人体で営まれている生命現象のうち、生命を維持する機能(呼吸・血液の循環とその調整・体液の調整と尿の生成)について理解する。その人体の構造と機能の理解から、日常生活における活動を理解し、看護学及び看護援助技術へつなげる		
担当講師	西原 紗恵 医学研究科 山田 緑 看護師臨床経験:7年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 ↳ 4	呼吸	呼吸器の構造 呼吸 内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動 呼吸気量 ガス交換 呼吸運動の調節 呼吸器系の病態生理 血液 血液の組成と機能 赤血球・白血球・血小板・血漿タンパク質と赤血球沈降速度 血液の凝固と繊維素溶解 血液型	講義	基礎分野 人間工学  専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 病態と治療Ⅵ
	5	<u>息をする</u>	息を吸う・吐く ガス交換	講義	
	6 ↳ 10	血液の循環とその調節	循環器系の構造 心臓の構造 心臓の拍出機能 心臓の興奮と伝達・心電図・心臓の収縮 末梢循環系の構造 血管の構造・肺循環の血管・体循環の血管・体循環の静脈 血液の循環の調節 血圧・血液の循環・血圧・血圧量の調節 微小循環・循環器系の病態生理 リンパとリンパ管	講義	専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ ヘルスアセスメント 経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ 基礎統合演習
	11	<u>恒常性維持のための調節機構</u>	流通の媒体、流通路・流通の原動力 神経性調節・液性調節	講義	成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ
	12 ↳ 13	体液の調節と尿の生成	腎臓 腎臓の構造と機能・糸球体の構造と機能 尿細管の構造と機能・傍糸球体装置 クリアランスと糸球体濾過量 腎臓から分泌される生理活性物質 体液の調節	講義	成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践
	14	<u>トイレに行く</u>	排尿路 排尿路の構造・尿の貯蔵と排尿 排尿・排便	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院			

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	看護形態機能学Ⅲ	単位 1単位	人体で営まれている生命現象のうち、生命を維持する機能(情報の受容と処理・内臓機能の調節・生殖発生の仕組みと老化)について理解し、人体を保護して種を保存する機能について理解する。その人体の構造と機能の理解から、日常生活における活動を理解し、看護学及び看護援助技術へつなげる		
担当講師	菊池 晴奈 医学研究科 宮崎 貴子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5 6	情報の受容と処理	神経系の構造と機能 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 脳の高次機能 中枢神経系の障がい 運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路 眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚 痛み(疼痛)	講義	基礎分野 人間工学
	7	話す聞く 眠る	声を出す・聞く・言葉 体のリズム・眠り	講義	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 病態生理学総論 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 病態と治療Ⅵ
	8 5 12	内臓機能の調節	自律神経による調節 自立神経の機能と構造・自律神経の神経伝達物質と受容体  内分泌系による調節 内分泌とホルモン ホルモンの化学構造と作用機序 全身の内分泌腺と内分泌細胞 視床下部一下垂体 甲状腺と副甲状腺 膵臓・副腎・その他の内分泌腺	講義	専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 共通看護技術Ⅱ 共通看護技術Ⅲ ヘルスアセスメント 経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ 基礎統合演習 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践
	13 14	生殖・発生と老化のしくみ 子どもを産む	男性生殖器 女性生殖器 受精と胎児の発生 成長と老化 子どもを産む 男と女、遺伝子組み換え・成功と受精・ 生殖を支えるホルモン 出産		
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院			

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態生理学総論	単位 1単位	疾病の成り立ちは、臓器によらず共通するものがあり、疾病・治療の原因と人体の反応およびその分類と特徴を理解する。また、健康障害を日常生活と関連させて捉える基礎的知識を養う		
担当講師	伊倉 義弘 医師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	疾病の成り立ちと病因	病理学とは 看護と病理学 先天異常と遺伝子異常 先天異常とは 染色体異常による疾患	講義	基礎分野  専門基礎分野 生化学
	2	代謝異常①	代謝障害 細胞の損傷と適応 脂質・たんぱく・糖質代謝異常と疾患	講義 講義	看護形態機能学 I 看護形態機能学 II 看護形態機能学 III 疾病治療論
	3	代謝異常②			
	4	循環障害	循環障害 うっ血・ショック・虚血	講義	病態と治療 I 病態と治療 II 病態と治療 III
	5	腫瘍	腫瘍 腫瘍の定義と分類 発生のメカニズム	講義	病態と治療 IV 病態と治療 V 病態と治療 VI
	6	炎症とアレルギー	炎症 炎症の原因・経過・創傷治癒 免疫とアレルギー 自己免疫疾患、膠原病	講義	専門分野 看護学概論 共通看護技術 I 共通看護技術 II 共通看護技術 III ヘルスアセスメント 経過に応じた基本技術 I 経過に応じた基本技術 II 基礎統合演習 成人援助論 I 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V 老年援助論 I 小児援助論 II 母性援助論 III 看護の統合と実践
	7	感染症	感染症 宿主の防御機構	講義	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 系統看護学講座 専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進[1] 疾病のなりたちと回復の促進[2]	病理学 病態生理学	医学書院 医学書院	

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	臨床微生物学	単位 1単位	微生物が人体に及ぼす影響を知り、感染症の原因である病原微生物について、体系的な知識を深める		
担当講師	岡本 豊 臨床検査技師経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	微生物学の基礎	微生物と微生物学	講義	基礎分野
	2		細菌の性質 真菌の性質 原虫の性質 ウイルスの性質	講義	専門基礎分野 生化学
	3	感染とその防御	感染と感染症	講義	看護形態機能学Ⅰ
	4		感染に対する生体防御機構	講義	看護形態機能学Ⅱ
	5		感染源・感染経路からみた感染症	講義	看護形態機能学Ⅲ
	6		滅菌と消毒	講義	病態生理学総論
	7		感染症の検査と診断 感染症の治療 感染症の現状と対策	講義	臨床薬理学 疾病治療論
	8	主な病原微生物	病原細菌と細菌感染症	講義	リハビリテーション療法 病態と治療Ⅰ
	9		グラム陽性球菌	講義	病態と治療Ⅱ
	10		グラム陰性球菌	講義	病態と治療Ⅲ
			グラム陰性好気性桿菌		病態と治療Ⅳ
			グラム陰性通性桿菌		病態と治療Ⅴ
			カンピロバクター属		病態と治療Ⅵ
			グラム陽性桿菌 抗酸菌と放線菌 嫌気性菌 スピロヘータ マイコプラズマ リケッチア目 クラミジア科		専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ ヘルスアセスメント 基礎統合演習 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅱ 母性援助論Ⅱ 看護の統合と実践
11		病原真菌と真菌感染症 病原原虫と原虫感染症	講義		
12		病原ウイルスとウイルス感染症	講義		
13		DNAウイルス	講義		
14		RNAウイルス ウイルスと臨床的分類	講義		
15	終講試験 終講試験の解説	筆記試験 問題の正誤確認とその理由			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	疾病治療論	単位 1単位	疾病の回復を促進する治療法としての放射線療法、化学療法および手術療法について、その特徴を理解する		
担当講師	岡 隆紀 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	臨床検査	診断法 診断の進め方、問診、身体所見 検体検査・生体検査	講義	基礎分野
	2				
	3	麻酔法	麻酔の知識 麻酔とは 手術室の管理 手術侵襲と生体の反応 全身麻酔、局所麻酔	講義	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法
	4				
	5	手術療法	外科療法の目的と意義 外科診断法 外科手術・処置の基本 術前・術後と術後合併症の管理 外科的侵襲と生体反応 炎症と外科的感染症 生体の損傷 腫瘍の外科治療	講義	病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 病態と治療Ⅵ
	6	各部の手術療法	上部消化管の手術	講義	
	7		下部消化管手術		専門分野
	8		肝胆膵手術		看護学概論 ヘルスアセスメント
	9		胸部外科	講義	経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ
	10		心臓血管外科		基礎統合演習
	11	化学療法	化学療法とは 化学療法の目的と特徴	講義	成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ
	12	放射線療法	放射線療法とは	講義	成人援助論Ⅰ
	13		放射線療法の目的・種類について		成人援助論Ⅰ
	14		放射線医学 CT、単純撮影、MRI エコー、アイトープ、IVR治療 など		老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	食事療法	単位 1単位	栄養の意義と生体に及ぼす影響と食事療法の種類や特徴を疾病と関連づけて理解する		
担当講師	岡本 泰幸 管理栄養士経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	人間栄養学と看護  栄養素の種類とはたらき	栄養学を学ぶということ 保健・医療における栄養学 看護と栄養 糖質・脂質・タンパク質 ビタミン・ミネラル・食物繊維・水	講義	基礎分野  専門基礎分野 生化学
	2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	食物の消化 栄養素の吸収 血漿成分と栄養素 栄養素の代謝 吸収・代謝産物の排泄	講義	看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 疾病治療論 リハビリテーション療法
	3	エネルギー代謝  食事と食品	食品のエネルギー 体内のエネルギー エネルギー代謝の測定 エネルギー消費 食事摂取基準 食品群とその分類 食品に含まれる栄養素、調理	講義	病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 病態と治療Ⅵ
	4	栄養ケアマネジメント	チームアプローチと栄養ケアマネジメント 栄養スクリーニング 栄養アセスメント、ケア計画 栄養ケア計画の実施とモニタリング 栄養ケアマネジメントの評価	講義	専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅲ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ
	5	栄養状態の評価・判定	栄養アセスメントの意義、方法、総合評価	講義	基礎統合演習 成人援助論Ⅰ
	6	ライフステージと栄養	各ライフステージにおける栄養	講義	成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ
	7	臨床栄養  健康づくりと食生活	病院食 栄養補給食 経腸栄養製品 静脈栄養剤 疾患・症状別  生活習慣病の予防 食生活改善への施策 食の安全性と表示	講義	成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 母性援助論Ⅰ 看護の統合と実践
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院				



教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	臨床薬理学	単位 1単位	薬理学の基礎知識をふまえて、疾病に対する薬物の特徴とその作用機序及び人体に及ぼす影響および治療効果について理解する		
担当講師	西川 直樹 管理薬剤師経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	薬理学を学ぶにあたって	薬物による病気の治療	講義	基礎分野
	2	薬理学の基礎知識	薬理学とは何か 薬力学・薬物動態学・相互作用 薬効因子・有益性と危険性・薬と法律	講義	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	3	循環器系に作用する薬物	降圧薬・狭心症治療薬・心不全治療薬 利尿薬・脂質異常症治療薬 血液凝固系・専用系に作用する薬物 血液に作用する薬物		
	3	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物 消化器系に作用する薬物 生殖器・泌尿器系に作用する薬物		
	4	物質代謝に作用する薬物	ホルモンとホルモン拮抗薬 治療薬としてのビタミン	講義	病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ
	6	皮膚科用薬・眼科用薬	皮膚に使用する薬物 眼科用薬	講義	病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ
	7	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 炎症と抗炎症薬 関節リウマチ治療薬・痛風・高尿酸血症治療薬	講義	病態と治療Ⅴ 病態と治療Ⅵ
	8	末梢での神経活動に作用する薬物	自律神経系作用薬 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義	専門分野 看護学概論 看護の思考過程 ヘルスアセスメント
	9	中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔薬・催眠薬・抗不安薬 抗精神病薬・抗うつ薬・気分安定薬 パーキンソン症候群治療薬・抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬・片頭痛治療薬	講義	経過に応じた基本技術Ⅰ 経過に応じた基本技術Ⅱ 基礎統合演習
	10	抗感染症薬	感染症薬に関する基礎事項 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 感染症の治療における問題点	講義	成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ
	11	抗がん薬	がん治療に関する基礎事項 抗がん薬各論	講義	成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ
	12	免疫治療薬	免疫系の基礎知識 免疫抑制剤 免疫増強薬・予防接種	講義	老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 母性援助論Ⅰ
	13	救急の際に使用される薬物	救急に用いられる薬物 急性中毒に対する薬物	講義	精神援助論Ⅰ 看護の統合と実践
	14	輸液製剤・輸血剤	輸液製剤 輸血剤		
	漢方薬 消毒薬	漢方薬各論 消毒薬とは・種類と作用・適用			
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療 I	単位 1単位			
担当講師	湯口 賢 医師臨床経験:10年以上 長澤 亜由美 看護師臨床経験:7年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間	呼吸器疾患の病態生理、検査、治療法、予後を理解する 循環器疾患の病態生理、検査、治療法、予後を理解する また、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を知る		
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5 6	呼吸器系の疾患の 病態と診断・治療	炎症性疾患 気管支炎・肺炎・間質性肺炎・胸膜炎 COPD 肺循環障害 肺高血圧、肺塞栓 肺結核 気胸 腫瘍 肺がん・中皮腫	講義	基礎分野  専門基礎分野 生化学 看護形態機能学 I 看護形態機能学 II 看護形態機能学 III 病態生理学総論
	7	<u>呼吸器疾患と症状の アセスメント</u>	呼吸器系の病態・治療から看護を考える	講義	疾病治療論 臨床薬理学 食事療法
	8 12	循環器系の疾患の 病態と診断・治療	虚血性心疾患 狭心症・急性冠症候群 心筋症 肥大型心筋症・拡張型心筋症 急性心不全・慢性心不全 心タンポナーデ 不整脈 上室性頻脈性不整脈・心室性頻脈性不整脈 徐脈性不整脈 炎症性疾患 感染性心内膜炎・心筋炎・収縮性心膜炎 弁膜症 大動脈弁疾患・僧帽弁疾患	講義	リハビリテーション療法 病態と治療 II 病態と治療 III 病態と治療 IV 病態と治療 V
	13	血圧異常の 病態と診断・治療	動脈硬化症 本態性高血圧 二次性高血圧 起立性高血圧		専門分野 看護学概論 ヘルスアセスメント 看護の思考過程 経過に応じた看護技術 I 基礎統合演習 成人援助論 I 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V
	14	<u>循環器疾患と 症状のアセスメント</u>	循環器系の病態・治療から看護を考える	講義	老年援助論 I 看護の統合と実践
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 医学書院 系統別看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統別看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい				
授業科目	病態と治療Ⅱ	単位 1単位	歯・口腔疾患、消化器疾患の病態生理、検査、治療法、予後を理解する 内分泌系、代謝系の病態生理、検査、治療法、予後を理解する 体液調節の疾患の病態と診断・治療を理解する また、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を知る				
担当講師	富永 洋一 医師臨床経験:10年以上 山田 緑 看護師臨床経験:7年以上	時間数 30時間					
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる						
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる						
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる						
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目		
	1	口腔	齲歯・歯周病 舌癌	講義	基礎分野		
	2	消化器系の疾患の 病態と診断・治療	上部消化管の疾患の病態と診断・治療 ・炎症性疾患: 逆流性食道炎・急性胃炎・慢性胃炎 ヘリコバクターピロリ感染症		専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 疾病治療論 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法		
	7		・潰瘍性疾患: 胃潰瘍・十二指腸潰瘍 ・腫瘍: 食道がん・胃がん 下部消化管の疾患の病態と診断・治療 ・炎症性疾患: 潰瘍性大腸炎・クローン病 虫垂炎・痔瘻 ・イレウス ・腫瘍: 大腸ポリープ・結腸癌・直腸がん 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・治療 ・炎症性疾患: 肝炎・胆管炎・膵炎 ・肝硬変 ・腫瘍: 肝がん・胆のうがん・胆管癌・膵がん ・脂肪肝、アルコール性肝炎 ・胆石症		病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ		
	8		<u>消化器疾患と症状の アセスメント</u>		消化器疾患の病態・治療から看護を考える	専門分野 看護学概論 ヘルスアセスメント	
	9		内分泌系の疾患の		間脳・下垂体疾患	看護の思考過程	
	10		病態と診断・治療		甲状腺疾患: 甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症・甲状腺炎 副甲状腺疾患 副腎皮質・髄質疾患 腫瘍: 下垂体腫瘍、甲状腺がん	基礎統合演習 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ	
	11		代謝異常の疾患の病態と		メタボリックシンドローム・肥満症	老年援助論Ⅰ	
	12		診断・治療		糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症、痛風	看護の統合と実践	
	13	<u>内分泌・代謝疾患と症状の アセスメント</u>	内分泌・代謝疾患の病態・治療から看護を考える				
	14	体液調節の疾患の 病態と診断・治療	水・電解質の異常: 脱水、浮腫 低ナトリウム血症、高ナトリウム血症 酸塩基平衡の異常: アシドーシス・アルカローシス				
	15	終講試験	筆記試験				
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする					
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎	人体の構造と機能[1] 解剖生理学		医学書院		
		系統看護学講座 専門基礎	疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学		医学書院		
	系統看護学講座 専門分野	成人看護学[5] 消化器	医学書院				
	系統看護学講座 専門分野	成人看護学[6] 内分泌・代謝	医学書院				
	系統看護学講座 専門分野	成人看護学[8] 腎・泌尿器	医学書院				
	系統看護学講座 専門分野	成人看護学[15] 歯・口腔	医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	病態と治療Ⅲ	単位 1単位	運動器疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する 脳神経疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する また、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を知る			
担当講師	清水 富男 医師臨床経験:10年以上 佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目	
	1 5 4	運動器疾患の病態と診断・治療	骨折、脱臼、捻挫 腫瘍:骨肉腫 変形性関節症 腰痛症:椎間板ヘルニア,腰部脊柱管狭窄症 炎症性疾患:骨・骨髄炎、関節炎 脊髄損傷 小児の骨折	講義	基礎分野  専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 疾病治療論	
	5	<u>運動器疾患のアセスメント</u>	運動器疾患の患者のアセスメント	講義	看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 疾病治療論	
	6 5 8	脳・神経疾患の病態と診断・治療	脳血管障害:脳内出血,クモ膜下出血、脳梗塞 モヤモヤ病 頭蓋内圧亢進 腫瘍:脳腫瘍 頭部外傷	講義	臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ	
	9	<u>脳・神経疾患のアセスメント</u>	脳・神経疾患の患者のアセスメント	講義	病態と治療Ⅴ	
	10 5 13	脱髄・変性疾患の病態と 診断・治療 脳神経系の感染症の病態と 診断・治療 筋肉・神経節接合部の疾患の 病態と診断・治療 末梢神経系の疾患の 病態と診断・治療 認知症	パーキンソン病・ALS 多発性硬化症 脳炎・髄膜炎 てんかん 筋ジストロフィー 重症筋無力症 ギランバレー症候群 圧迫性神経障害 ベル麻痺 自律神経失調症 アルツハイマー病 脳血管性痴呆 レビー小体型認知症	講義	専門分野 看護学概論 ヘルスアセスメント 看護の思考過程 基礎統合演習 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践	
	14	<u>中枢神経系、筋肉・神経節接合部 末梢神経系の疾患の アセスメント</u>	中枢神経系、筋肉・神経節接合部、抹消神経系の 患者のアセスメント	講義		
	15	終講試験	筆記試験			
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療Ⅳ	単位 1単位	腎・泌尿器疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する アレルギー性疾患・感染症の病態生理、検査、治療、予後を理解する また、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を知る		
担当講師	辻本 吉広 医師臨床経験:10年以上 富山 美加 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:7年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 4	腎臓・泌尿器系の疾患の 病態と診断・治療	腎炎・慢性腎臓病 炎症性疾患:腎盂腎炎 腫瘍:腎がん・尿管がん 腎不全	講義	基礎分野
	5 6		排尿障害:過活動膀胱・腹圧性尿失禁・夜尿症 炎症性疾患:膀胱炎 腎・尿路結石 男性生殖器の疾患:前立腺炎、前立腺肥大 腫瘍:膀胱がん	講義	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 疾病治療論
	7	腎臓疾患と症状のアセスメント	腎臓疾患の患者のアセスメント	講義	臨床薬理学 食事療法
	8 12	血液・造血器の疾患の 病態と診断・治療	貧血:鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血 溶血性貧血・骨髄異形成症候群・二次性貧血 白血球減少症 出血性疾患:TTP・ITP・DIC 腫瘍:白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫	講義	リハビリテーション療法 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅴ
	13	血液・造血器の疾患の アセスメント	血液・造血器疾患の患者のアセスメント	講義	
	14	感染症の病態と診断・治療	COVID-19	講義	専門分野 看護学概論 ヘルスアセスメント 看護の思考過程 基礎統合演習 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践
	15	終講試験	筆記試験		
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	保健医療論	単位 1単位	医療の発達、医療体系と機能、今日の医療の課題を理解する		
担当講師	清水 富男 医師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	生きることと死ぬこと	生命を尊ぶ心 健やかに生きる 老いてこそ人生 穏やかに死ぬこと 終末期を考える	講義	基礎分野
	2	医学と医療	医学の歴史 臨床疫学とEBM	講義	専門基礎分野 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ
	3	保健・医療・介護 切れ目ないサポートの実現	保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化	講義	関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	4		社会保障制度 公衆衛生と保健 我が国の医療システム 救急医療・集中治療 がん治療 周産期医療 放射線診断 チーム医療 リハビリテーション 介護		
	5	医療と社会	医の倫理	講義	専門分野 看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 在宅看護概論 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
	6		医療安全 医薬品 最先端医療 医療情報		
	7	医療経済学と医療政策	経済学を用いて医療を読み解く 転換を迫られる医療政策	講義	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[1] 医療概論 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	関係法規 I	単位 1単位	保健医療福祉に関する関係法規の基礎について理解する(法の概念、法令、医事法規概要)厚生行政のしくみなど生活者に必要な法令の基礎を理解する		
担当講師	松田 孝緒 病院事務職:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	法の概念	法の概念 衛生法 厚生行政のしくみ	講義	基礎分野
	2	保健衛生法	共通保健法	講義	専門基礎分野 保健医療論 公衆衛生学 社会福祉 I 社会福祉 II 関係法規 II
	3		地域保健法 健康増進法		
	4		分野別保健法 感染症に関する法 食品に関する法		
	5	薬務法	医事一般に関する法律	講義	
	6		医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律		
	7	環境法	環境保全の基本法 公害防止の法 自然保護法	講義	専門分野 看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 在宅看護概論 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	リハビリテーション療法	単位 1単位			
担当講師	吉田 和也 医師経験:10年以上 大垣 昌之 理学療法士経験:10年以上 池上 泰友 理学療法士経験:10年以上 塚本 賢司 作業療法士経験:10年以上 西島 浩二 言語聴覚士経験:10年以上	時間数 15時間	リハビリテーションの概念を知り、リハビリテーション療法の実際と多職種連携を理解する。		
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	リハビリテーション概論	リハビリテーションの定義と理念 リハビリテーションの対象と制度	講義	基礎分野 人間工学
	2 3 4	リハビリテーション概論、各論	疾病・障害・生活機能分類 リハビリテーションの分野 経過別リハビリテーション 多職種連携 さまざまな障害とリハビリテーション	講義	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	5	理学療法	理学療法の実際	講義	疾病治療論 病態と治療Ⅰ
	6	作業療法	作業療法の実際	講義	病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ
	7	言語・聴覚療法	言語・聴覚療法の実際	講義	病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 病態と治療Ⅵ
	8	終講試験	筆記試験		専門分野 看護学概論 ヘルスアセスメント 共通看護技術Ⅰ 基礎統合演習 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				



教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療V	単位 1単位	女性特有の疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する 周産期の異常を理解する		
担当講師	前納 一三 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間	自己免疫疾患および感染症の病態生理、検査、治療、予後を理解する 感覚器(皮膚・眼・耳鼻咽喉)疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する また、それぞれの病態・治療から看護を考えるための視点を知る		
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	女性特有の疾患の	子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫	講義	基礎分野
	2	病態と診断・治療	腫瘍:子宮体癌・子宮頸癌・卵巣癌		
	3		腫瘍:乳癌	講義	専門基礎分野
	4	周産期の異常	妊娠期の異常 常位胎盤早期剥離・前置胎盤・妊娠高血圧症候群 妊娠糖尿病・流産	講義	生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	5		分娩期の異常 前期破水・帝王切開術・分娩時異常出血 胎児機能不全		看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 疾病治療論 臨床薬理学
	6	自己免疫疾患の病態と診断・治療	SLE	講義	食事療法
	7	アレルギー性疾患 の病態と診断・治療	関節リウマチ シェーグレン症候群 アナフィラキシーショック		リハビリテーション療法 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ
		免疫機能低下に関連する疾患の 病態と診断・治療	敗血症 HIV		
	8	<u>自己免疫・免疫機能低下疾患の アセスメント</u>	自己免疫疾患患者のアセスメント	講義	専門分野
	9	皮膚障害	湿疹・アトピー性皮膚炎・帯状疱疹・蜂窩織炎・疥癬	講義	看護学概論 ヘルスアセスメント
	10		蕁麻疹 接触性皮膚炎		看護の思考過程 基礎統合演習 成人援助論Ⅰ
	11	感覚器系の疾患の	視覚障害:白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症	講義	成人援助論Ⅱ
	12	病態と診断・治療	聴覚障害:難聴・メニエール病		成人援助論Ⅲ
	13		嗅覚・味覚障害		成人援助論Ⅳ
14		炎症性疾患:咽頭炎・扁桃炎 腫瘍:咽頭がん 花粉症・アレルギー性鼻炎	成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 看護の統合と実践		
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療VI	単位 1単位	小児期の特徴的な健康障害について、症状発生のメカニズムや治療を学ぶ		
担当講師	武井 安津子 医師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5 5	小児の疾患と治療	染色体異常 常染色体異常:ダウン症候群・トリソミー 性染色体異常:クラインフェルター症候群 ターナー症候群  心疾患 先天性心疾患:心室中隔欠損症・心房中隔欠損症 動脈管開存症・ファロー四徴症) 後天性心疾患:川崎病 消化器性疾患:ロタウイルス感染症・ノロウイルス感染症 内分泌疾患:成長ホルモン分泌不全性低身長症 先天性甲状腺機能低下症 代謝性疾患:先天性代謝異常・1型糖尿病 腎臓:ネフローゼ症候群 感染症:ウイルス感染症(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎) アレルギー性疾患:食物アレルギー・気管支喘息	講義	基礎分野  専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 病態生理学総論 疾病治療論 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	6 7	小児外科疾患と治療	消化器性疾患:口唇口蓋裂・先天性横隔膜ヘルニア 食道裂孔ヘルニア・食道閉鎖症 先天性腸閉鎖症・狭窄症 ヒルシュスプルング病・鎖肛 臍帯ヘルニア	講義	専門分野 看護学概論 ヘルスアセスメント 看護の思考過程 基礎統合演習 小児援助論Ⅰ 小児援助論Ⅱ 小児援助論Ⅲ
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	公衆衛生学	単位 1単位	人間の健康を保持増進するための社会や環境と健康との関わりについて理解する 公衆衛生の現状を知り、今日的保健対策の理解に努める また、急速な高齢化社会に伴う医療、保健、福祉の問題、新興国の急速な経済発展に伴う環境問題(温暖化・汚染etc)と健康への影響および健康増進のための対策、地域保健など幅広く学ぶ		
担当講師	富田 久子 保健師経験:10年以上 教育経験7年	時間数 30時間			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	公衆衛生学序論	公衆衛生とはなにか 世界の公衆衛生の歴史 日本における公衆衛生 はじまりと発展 新たな公衆衛生の理念	講義	基礎分野
	2	公衆衛生の活動対象	自分の生活と健康に関する社会集団 看護職の公的責任と活動対象 社会集団をとらえる視座 社会集団のなかにある特定集団	講義	専門基礎分野 保健医療論 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	3	公衆衛生のしくみ	政策展開 国と地方自治体の役割 専門職のはたらき 多職種との協働 住民との協働	講義	
	4	集団の健康をとらえるための手法 疫学・保健統計	集団としての人々の健康をまもる 公衆衛生の場での疫学 集団をとらえる 原因を分析する 対策を計画・実施する エビデンスを使う、つくる	講義	専門分野 看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 在宅看護概論 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
	5	環境と健康	環境と健康 地球規模の環境と健康 身の回りの環境と健康 日本の環境行政	講義	
	6	感染症とその予防対策	感染症とその予防の基礎知識 日本の感染症予防対策 院内感染とその予防 公衆衛生上の重要な感染症とその対策 経済格差と健康格差・健康格差の解消のために	講義	
	7	国際保健	国際保健の担い手・共通目標 国際保健の共通目標 国際保健と日本	講義	
	8	地域における公衆衛生の実践	公衆衛生看護とは 母子保健	講義	
	9		成人保健	講義	
	10		高齢者保健	講義	
	11		精神保健	講義	
	12		歯科保健	講義	
	13		障がい者保健・難病保健	講義	
	14	学校と保健	学校における健康とは 学校保健の展開 特別な支援を必要とする子どもたち	講義	
	15	職場と健康	職場における健康 職場における健康をまもるしくみ 産業保健活動の展開 産業保健における今後の課題と新たな動き	講義	
16	健康危機管理・災害保健	健康危機管理 災害保健			
17	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	関係法規Ⅱ	単位 1単位	看護職に関わる法令を理解する意義について学ぶとともに、法律の内容を理解する		
担当講師	木村 幸子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上 井阪 俊彦 医師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	法を理解する意義	看護職に関わる法令を理解する意義	講義・演習	基礎分野
	2	医事法 看護関係法	保健師助産師看護師法 目的、定義、免許、業務、試験 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義・演習	専門基礎分野 保健医療論 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ
	3		医行為と診療の補助 特定行為 介護施設の喀痰吸引		
	4	国民の医療に関する法	医師法 医療法 医療関係資格法 医療を支える法	講義・演習	専門分野
	5	医療事故と法	医療過誤	講義	看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 在宅看護概論 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
	6		医療と刑事責任・民事責任		
	7	労働法と社会基盤整備	働く者の健康を守る医療従事者として、労働条件および職場の安全について定めた法律 労働基準法 労働安全衛生法	講義・演習	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	社会福祉 I	単位 1単位	社会福祉の意義や歴史、制度についての基礎を理解する。 現代の貧困問題や人権問題と自分たちが「生きつづける」現代社会の動向を 幅広く考える視点を身につける。		
担当講師	馬込 武志 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	社会福祉の理念	社会保障制度の概要及び現代の課題 社会福祉の意味、定義 社会福祉の理念 社会福祉の構造	講義	基礎分野
	2	社会福祉の歴史	社会福祉の対象についての考察(1) 貧困問題	講義	専門基礎分野 保健医療論 公衆衛生学
	3	日本における社会福祉の発達	社会福祉の対象についての考察(2) 歴史から考える	講義	社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ
	4	社会福祉の概要と動向	社会福祉の法と制度 生活保護制度、介護保険制度、所得保障	講義	関係法規Ⅱ
	5	社会福祉の分野とサービス	社会福祉の対象についての考察(3) 障がい児者福祉の歩みから考える	講義	
	6		社会福祉の対象についての考察(4) 子どもと家族への支援から考える	講義	専門分野 看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論
	7	社会福祉実践の共通基盤	社会福祉における相談援助 ソーシャルワークの理解 現代社会と地域問題、社会福祉 公的扶助 ノーマライゼーション 少数者と人権 地域福祉 共生社会	講義	小児看護学概論 母性看護学概論 在宅看護概論 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	社会福祉Ⅱ	単位 1単位	社会福祉全体の概説を学ぶ 昨今の社会福祉のニーズをはじめ、地域福祉の導入や介護保険、障害者総合支援法等知っておくべき社会福祉の基本的知識を習得する		
担当講師	山本 永人 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	我が国の社会保障制度と社会福祉	我が国における社会保障制度の体系 社会福祉サービスとの比較	講義	基礎分野
	2	我が国の社会福祉史(1)	明治期の福祉 福祉の先達たちの活躍	講義	
	3	我が国の社会福祉史(2)	福祉6法の成立に向けて 生存権保障と福祉サービスの胎動	講義	専門基礎分野 保健医療論 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ
	4	現代社会の変化と社会保障	福祉サービスの拡大 社会福祉基礎構造改革後の社会福祉サービスの展開	講義	関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	5	社会保険制度①医療保険(1)	少子高齢化社会の統計的な変化 現代的貧困とジェンダー	講義	
	6	社会保険制度②医療保険(2)	医療保険が成立してきた経緯 医療保険の保険者・被保険者 職域保険と地域保険	講義	
	7	社会保険制度②年金保険	保険制度のしくみと保険給付 後期高齢者医療制度のしくみ 医療保険制度の課題と今後	講義	専門分野 看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論
	8	社会保険制度③労働保険	年金制度が成立した経過 賦課制度による年金保険のしくみ 年金制度の将来的な展望	講義	母性看護学概論 在宅看護概論
	9	社会保険制度④介護保険(1)	雇用保険制度について 労働者災害補償保険について	講義	看護管理・看護倫理 看護の統合と実践
	10	社会保険制度④介護保険(2)	介護保険ができるまでの背景 介護ニーズの増大と医療モデルでの対応の限界 老人保健制度から介護保険制度へ	講義	
	11	公的扶助制度	介護保険制度の保険者、被保険者 介護保険制度の給付と地域支援事業 介護保険の今日的課題	講義	
	12	社会福祉サービス① 障害者サービス(1)	公的扶助の体系 生活保護制度の原理と原則 生活保護制度の実施プロセス 社会手当	講義	
	13	社会福祉サービス① 障害者サービス(2)	ICFとノーマライゼーション 障害者の範囲とその拡大 障害者福祉サービスの変遷	講義	
	14	社会福祉サービス② 児童家庭福祉サービス	支援費制度と障害者自立支援法 障害者総合支援法とそのサービスの内容 障害者差別解消法の考え方	講義	
15	終講試験	子どもの定義 子どもの権利に関する条約と児童福祉法 児童福祉サービスの内容 児童虐待への対応	講義		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院				